

住民要求実現で住みよいく喜市を

コロナ対策でも頑張る 日本共産党久喜市議団



新たなごみ処理焼却場建設計画では地球温暖化防止に逆行では

久喜市で、新たなごみ処理施設を菖蒲清掃センター一箇所に統合する計画を進めています。2024年度中には工事を終え、2025年度には稼働が始まる計画です。

現在、施設規模や燃やす内容とリサイクルなどを決定する「ゴミ処理施設整備基本計画」を策定中です。来年度以降に、運営方法、炉の方式や規模を決める業者選定を進めます。そのための、環境アセスメント調査や民間委託の可能性調査を行っています。

基本計画検討委員会の審議内容

専門家、有識者、市民の代表からなる基本計画検討委員会では、令和元年から施設整備の内容を審議して来ました。先日の第7回検討委員会では、ペットボトル以外のプラスチックは分別せずにすべて燃やす。生ゴミも燃やす計画を可決しました。

「新たなゴミ処理場ではゴミをすべて焼却し、熱を電気に変えエネルギー利用をする。それにより経費が年間2.1億円浮く。」というものです。これまで久喜市は、焼却量を減らし

市民サービスにも影響

また、ゴミ処理場と一緒に建設する発電施設を活用し、温水プールや温浴・会議室など多用施設を計画しているようですが、同時に市民プールや菖蒲・鷺宮の温水プールや福祉センターを、ここへ統合していく方向性が出されています。市民サービス低下に繋がる許されない内容です。

地球環境を守る立場で、分別を先行させ、3R推進を進めて来ました。今後、分別しない分、資源再生利用率は低くなり、二酸化炭素の排出量は多くなります。地球温暖化を止める立場と逆行です。



東京理科大の跡地
現在は教育委員会

どうなる？理科大跡地利用 「公共施設統廃合計画」

梅田市長は、田中前市長が計画した「子育て支援センター」「教育センター」などの構想を、「オフィスの貸し出し」「市民レストラン営業」など収益を生み出す施設へと、計画の見直しを公約に掲げました。そして、この間、跡地活用として「民間事業者の意向調査」を進め、事業の実現性などの検証が進められてきました。

しかし、久喜市は7月2日議会最終日の全協で、採算性に難があること。現在の経済状況では、出店者の確保も困難との結論に至ったことを明らかにしました。

今後の理科大跡地の活用案は

1. 理科大跡地の維持費が年7000万円かかり、2021年夏までに、教育委員会を鷺宮総合支所へ移転する。
2. 同じく鷺宮支所5Fに「生涯学習センター」を設置する。(2021年令和3年度後半に)
3. 今後、理科大跡地は公共施設としては使わない。また「久喜市の目指すべき公共施設」の中に「新庁舎の整備構想」も位置づけることを明らかにし、時期としては「合併推進債が活用できる期間までに」としています。

今後、市は他の支所や、福祉センター、保健センター、小中学校などの「公共施設の統廃合」を検討しており、行政サービスの低下をさせないことが課題です。

6月議会に提案された決議・意見書

各議員の対応はあなたの思いと一致していますか

(○は賛成)

決議・意見書の主旨	提出党派	共産 4人	市民 3人	無会 1人	公明 5人	新政 8人	政策 6人	採決結果
新型コロナウイルス感染症によって経済的影響を受けた市民及び事業者に対し水道料金の減免による支援策を講じることを求める決議	全会派	○	○	○	○	○	○	可決
緊急事態宣言下において社会を支える医療従事者をはじめ、エッセンシャルワーカーに対し敬意と感謝の意を表する決議	新政久喜	○	×	×	×	○	×	否決
新型コロナウイルス感染症における「医療法人 土屋小児病院」に対する支援に関する決議	全会派	○	○	○	○	○	○	可決
東京高検黒川弘務検事長の定年延長を行った閣議決定の撤回を求める意見書	日本共産党	○	○	○	×	×	×	否決
国会における憲法改正議論の推進を求める意見書	新政久喜	×	×	×	×	○	×	否決